

## 六児像様のおはなし

六つの面に一体づつ、六体のお児像さまがおられる草場村の六児像さま。だから、たくさんのおともたちと一緒に遊ぶことができるのだとか。そんな六児像さまにまつわる、むかし、むかし、ある日のできごとでした。

子どもたちがお児像さまを川にはこび、水をかけたり洗ったりして遊んでいると…

「こら、おまえたち。お児像さまに水をかけたりしている、バチがあたるぞ！」

ひとりの村人が通りかかって、子どもたちを叱りました。

子どもたちはびっくり仰天。蜘蛛の子を散らすように逃げていってしまいました。

「イテテ！イテテ！」しばらくすると、その村人のお腹が急に痛みだしました。

いそいで家に帰り、村人が眠りについたころ…

何やら遠くから声が聞こえ、スーッと夢のなかに六児像さまが現れたのです。

「せつかく子どもたちと遊んでおったのに、お前が叱ったので、

ひとりぼっちになってしまったではないか」。

なんと、村人のお腹が痛くなった原因は、六児像さまだったのです。

子どもが大好きな六児像さまは、今も、子どもたちの守り神として大切にされています。

今日も、小川のそばで、子どもたちを見守っていることでしょう。

## 弁天城のおはなし

武士が力を持ちはじめ、源氏と平家が争った平安時代の終わりごろのお話です。

平家の全盛期を築いたことで有名な平清盛。

その清盛が、5番目の息子で優秀な武将だった平重衡に命令し、

敵が攻め込みにくく、守りやすい場所として、

現在の弁天城の地に城を築かせました。

その城は、守り神として弁財天(弁才天)がまつられたことから

「弁天城」と呼ばれ、長野(永野)新九郎が城主として派遣されたと伝えられています。

やがて城がなくなった後、里の人々は

「弁天城」の「天」は、おそれ多いということから、

「天」を除いた「弁城」という地名で呼ぶようになったそうです。

現在でも城があったと思われる付近には、弁財天をまつるほこらがあり、

「弁天」や「平家屋敷」という地名も残されています。

また「方城」の地名は、伊方村の「方」と弁城村の「城」が組み合わされたもので、方城支所の庁舎は、その「城」にちなんで、お城のかたちをしています。



【絵】桑野佳奈

【参考】金田町の伝承と昔ばなし・あがいけのこばなし・方城かたりべ・金田町誌・赤池町史・方城町史



弁天城跡付近の弁財天のほこら。田川郡誌には「平家は其の勢力の及ぶ所、守護神弁財天を奉仕する慣わしあり、上弁城の地にも築城と共に奉祠されたり」とあります。



市場草場の子どもたちの守り神とされてきた六児像様(左)。昔は、青竹を割って種油を入れ火を灯す「千燈明」を六児像様の前行い、子ども相撲をしていたそうです。